

用宗の地域おこしの今とこれから：  
地域おこしを支えている団体から

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2015-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高, 源 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/8073">http://hdl.handle.net/10297/8073</a>

## 用宗の地域おこしの今とこれから

～地域おこしを支えている団体から～

高源

- 1 はじめに
- 2 地域おこしとは何か
- 3 用宗の今
  - 3.1 地域活性化の必要性
  - 3.2 用宗における地域おこしの概要
- 4 地域活性化に携わる人々の声～地域おこしの団体から
  - 4.1 「やらざあ会」
    - 4.1.1 「やらざあ会」の歴史と活動
    - 4.1.2 活動における課題と展望
  - 4.2 長田南商店会
  - 4.3 「なぎさ市」実行委員会
    - 4.3.1 「なぎさ市」
    - 4.3.2 「なぎさ市」が抱える課題と展望
- 5 用宗のこれから
  - 5.1 用宗の地域おこしの課題
  - 5.2 将来への展望
- 6 おわりに

### 1 はじめに

近年、日本全国において地域おこし、すなわち「まちづくり」と呼ばれる運動が展開されている。活性化を目指している地域は数多くあるが、それぞれの状況の違いによって、活動も様々である。西村幸夫によれば、「まちづくり」には、百の地域があれば百の形態があるという。まず、気候や地形、植生などの自然環境や、そのまちが歩んできた歴史などによる差がある。これらは、その場所固有のもので、そこに住んでいることを実感したり、住むことに愛着や誇りを感じたりするもととなる。一方、そのまちが抱える課題も千差万別であろう（西村 2007）。

今、静岡県静岡市駿河区用宗（もちむね）地区では「日本一住みよい町づくり」を標榜して地域活動が進められている（山本 2007）。用宗の地域活動を列挙してみると、用宗の

歴史基礎講座や文化作品展といった文化活動、商店街活性化などの経済活動、祇園祭、用宗漁港まつり、なぎさ市、青空市などのお祭りやイベントの開催など、実に多種多様である。それらは一括して「地域おこし」と呼ばれている。用宗には地域おこしの活動が盛んであることは分かったが、なぜ、この地区には地域おこしが必要とされているのだろうか。用宗の地域活動においてどのような主体が存在し、それぞれがどのような取り組みをし、役割を担っているか。そこで本報告では用宗の地域おこしの現状を分析し、地域活性化を目指している団体を取り上げて、用宗の地域づくりの課題について考察する。また、それらを考察した上で、用宗の地域活性化における将来性について考えていこうと思う。以上のような問題意識を抱いて、私たちは2014年6月8日から6月14日にかけて、用宗で1週間のフィールドワーク調査を実施した。

本章の構成は以下のとおりである。まず、第2節では地域おこしの定義について説明する。第3節では用宗の現状について記述する。また第4節では「やらぎあ会」、長田南商店会、「なぎさ市」実行委員会などの用宗の地域おこしを目指している団体を取り上げて、それぞれの活動と、成果、課題について明らかにする。最後に用宗の地域おこしの課題、ひいては将来の可能性について考察する。

## 2 地域おこしとは何か

用宗の地域おこしの現状を考察する前に、まず「地域おこし」とは何かについて整理しておきたい。

地域おこしは「村おこし」や「町おこし」、地域振興、地域活性化などとも呼ばれる。また、ほぼ同義語に「地域づくり」「むらづくり」「まちづくり」などがある。今や「むらづくり」という言葉は、市民によって日常生活で頻繁に使われている。「むらづくり」と「むらおこし」の違いについて、森巖夫は次のように述べる（森 1933: 14）。

「むらづくり」とよく似ている言葉に「むらおこし」がある。ふつうはあまり厳密に使い分けられていないが、両者の間に若干ニュアンスの差があることは確かである。ここでつくりとおこしの語源を詮索するつもりはないが、ひとくちでいえば、「むらおこし」のほうには、内からというか、下からというか、自発的な要因を重視する思いが込められているように感じられる。

もうひとつ、つくりはやはり造り、作りであって、物的な施設整備が念頭に浮かんでくる。道路を直すとか橋梁を架けるとか建物を建てるといったハード面のニュアンスが強く感じられる。これに対して、おこしは興し、起こしで、意欲とか催しごととか体制などのソフト面にアクセントが置かれているように感じられる。

「地域おこし」と「地域づくり」の間にもこのような違いがあるだろう。「むらおこし」「地域おこし」という表現は住民、企業、地元の団体やそこに住む人々の主体性を強調している。その内実として、地域のハード面の整備よりソフト面の改善を重視する傾向があるといえよう。

本報告では住民、地域団体が主体として、「地域の人と人とのつながりをつくる」ための、用宗活性化の活動に注目していきたい。そのため、「地域おこし」という言葉を用いることにしたい。

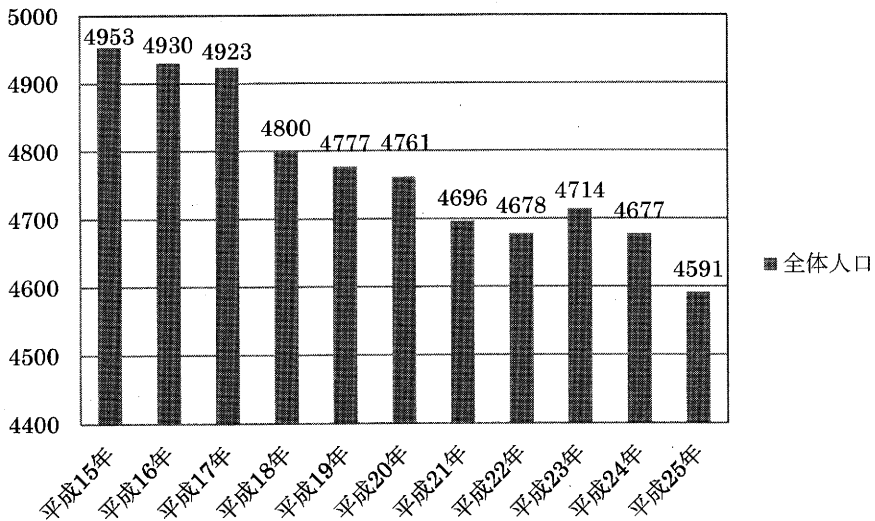
### 3 用宗の今

この節では用宗の現状について、つまりこの地区にはなぜ地域活性化が必要とされているか、また今までに、どのような地域おこしが行われてきたかについて記述したい。

#### 3.1 地域活性化の必要性

農山漁村の衰退は、人口減少から起こっている。今日、日本全国では人口減少、過疎化が起こっているため、用宗でも同様に人口減少問題があると考えられる。

図1 用宗地区全体人口推移（住民基本台帳）



出典：静岡市ホームページ 統計情報「静岡市の人口・世帯」（2014）より高作成

総務省統計局によれば、2008（平成19）年以降現在まで、日本人口は前年に比べて減

少しており、しかも、減少率は徐々に大きくなっているため、2008年が、人口減少社会「元年」と言えそうである（総務省統計局 2014）。人口減少については2005（平成16）年から特に新聞記事に大きく掲載され、現実の問題として広く注目されている。そこで、私はその前年の2004（平成15）年からの用宗の人口のデータを分析する。図1は静岡市統計情報を参考して作成したものである。

図1を見ると、2004（平成15）年9月30日において用宗地区の人口は4953人であるが、2013（平成25）年9月30日までに4591人になり、10年間に362人が減少した。用宗地区の人口は減少している傾向が見られるが、深刻までとは言えないと考えられる。

人口は減少している一方、人々の寿命は延びているので、結果として高齢化が進んでいる。用宗地区にも住民の高齢化という課題を抱えている。

2014年の統計によれば、全国・静岡市・駿河区・用宗地区の高齢化率比較の結果は表2の通りである。表1をみると、用宗地区において、65歳以上の人口は1501人であり、これは全体の人口の約32.7パーセントにあたる。全国の高齢化率25.6パーセントと比べて、用宗地区は高齢化率が高いということがわかる。

表1 高齢化率の比較

	全国	静岡市	駿河区	用宗地区
総人口	1億 2570万 3000人	71万 6753人	21万 2191人	4595人
高齢者数	3211万 8000人	19万 3847人	5万 1491人	1501人
高齢化率	25.6%	27%	24.3%	32.7%

出典：総務省統計局ホームページ「人口推計」と静岡市ホームページ統計情報「静岡市の人口・世帯」（2014）より高作成

人口減少や住民の高齢化は、用宗地域全般にわたり、様々な影響を及ぼしているようである。2008年11月に開かれた「第2回用宗まちづくり会議」では用宗の現状などを分析した。その会議議事録の資料によると、人口減少や住民の高齢化が及ぼす影響は主に以下の3点がある（用宗まちづくり委員会 2008）。

- ① 地域経済への影響：労働力の供給が厳しくなっている。それにより、用宗の農業の衰退と商店街の衰退につながる。
- ② 地域社会への影響：地域の防犯や防災上の安全の確保などの自主的な住民活動をはじめとする地域のコミュニティ機能が弱体化している。また、それにより、住民のネットワークも疎遠なものとなる傾向がある。
- ③ 地域文化への影響：高齢化は、地域活動を支える世帯の減少につながり、伝統行事や地域文化の継続が困難になっている。

フィールドワークを行なった1週間で、私は何回も用宗駅前の通りへ足を運んだ。薬屋や自転車屋などの店が営業を続けているが、住宅地や空き店舗が多く見受けられた。そして、訪ねた様々な商店の経営者は年配の人が主で、商店の後継者がいないなどの事情を語ってくれた。さらに、平日に商店街を歩いている人は年配の人や帰宅途中の学生が主で、客足は少ない。以上わずかの期間内の印象であるが、それでも用宗商店街の衰退は事実であることがわかった。

また、「なぎさ市」に参加した時、このようなイベントや祭りの担い手や出店する人は年配の人が多くと実感した。新鮮な海産物を販売する若い漁師さんもいるが、比較的若者のイベントや祭りへの参加は多いとは言えない。

上述の状況を変えるために、用宗には地域を活性化する動きがここ数年で高まっている。

### 3.2 用宗における地域おこしの概要

用宗における地域おこしについて、用宗町内会の職員である増田金重氏（男性、63歳）は以下の内容を語ってくれた。

人口の減少、商店街の衰退などの地域の新しい変動により、用宗の活力は低下し続けている。まちの活気を戻すため、2004年に地元商店主達を中心になる会「やらざあ会」が結成された。ちなみに、やらざあは静岡方言で「さあ！やるぞ」という意味である。「やらざあ会」の会員はボランティアとして、地域清掃をはじめとした用宗の地域活性化の活動を行っている。これは住民による用宗の地域おこしの原点といえる。

「歴史ある町、活気ある町をつくって行きたい」という方針を目指して、「もちぶねの会」が結成された。会員は歴史が好きな人が主で、「用宗とは何か」、「用宗の歴史、魅力とは何か」などを人々に伝えるために、用宗町民文化作品展、古文書の整理などの町内のイベントや活動に積極的に参加した。

「用宗の町づくり」が急務との認識により、用宗町内会から委嘱を受けた住民で「用宗の町づくり会議」を発足し、町内会協議員と一緒に「用宗町づくり委員会」を組織し、2009年10月から2011年まで月1回から2回の会合を開いた。「町づくり委員会」は住民から提出されたアイデアを集めて、町づくり会議で審議し、地域活性化の施策を考えた。「町づくり委員会」は、①用宗町内会のホームページの作成、②歴史基礎講座の開催、③古文書の町民開示、④スタンプラリーの開催など様々な活動やアイデアを提案した。

地域おこしの具体的な施策を実施するために、町民の協力が必要になるので、「住みよい・活気ある・歴史ある」用宗を目指した「汐風クラブ=町づくり応援隊」が2011年に打ち立てられた。このクラブは20代から70代の会員約60人で、町内会などと連携しつつ、住みよい町づくりのための各種施策の支援活動を行った。例えば、祇園祭りなどのお祭りの支援、城山などの整備支援である。現在でも、「汐風クラブ」は地域おこしのために活躍している。

商店街の活性化を目指して、地元の商店主たちは長田南商店会を立ち上げた。そして、

2013年3月から、長田南地区の地域ブランド向上および産業の活性化を図ることが目的としたなぎさ市実行委員会をつくられた。

また、町内会で行った地域おこしのイベントについて、私は用宗町内会会長石田英亀氏（男性、72歳）に話を聞いた。石田英亀氏によると、町内会は、体育振興会、子ども会、婦人部（2つ）、やらざあ会、しらすクラブ、汐風クラブ、消火隊、遺族会、松林協議会、以上10団体を支援し、用宗の活性化のために活躍していると語った。今後の町内会の地域おこしの活動について、今年7月に活性化準備委員会を開く予定で、町内会が主体として、用宗の地域団体と連携し、半年から1年後を目途に本格的な活動を行う予定だそうである。

以上、用宗における地域おこしの概要について述べてきた。用宗の地域おこしの特徴は住民が主導で町内会が協力したことである。住民と町内会は緊密な協力関係を持ち、地域おこしが進められている。

#### 4 地域活性化に携わる人々の声～地域おこしの団体から

上では用宗の現状を考察した。用宗では地域おこしのために活動する団体が多く存在していることがわかったところで、次に「やらざあ会」、長田南商店会、「なぎさ市」実行委員会、この三つの団体を取り上げて、それぞれの活動や課題などを述べていきたい。

##### 4.1 「やらざあ会」

###### 4.1.1 「やらざあ会」の歴史と活動

表2は「やらざあ会」の歴史を表している。以下の記述は、表2と前田義之氏（男性、57歳）、鈴木淳弘氏（男性、72歳）、東川小夜子氏（女性、61歳）から聞いた話にもとづいてまとめた。

2004年、用宗のまちおこしのため、スズキ薬局、八百鉄商店などの7名の商店主達により「やらざあ会」が発足した。「やらざあ会」に参加している人は7人しかいないが、花のプレリュード、かご金、マルカイなどの店や地元の住民が応援や協力をしている。最初、「やらざあ会」はボランティアとして、地域清掃などの活動を行なった。その後、「持舟窯」という陶芸教室を経営している東川さんは用宗海岸でフリーマーケットのような活動をやれたら良いのではないかと考えて、「やらざあ会」と相談し、「青空市」の開催を提案した。「やらざあ会」は「青空市」の開催する場所について、町内会と相談し、町内会の応援を受けて、用宗公園緑地を無料で使用できるようになった。そして、2005年5月、第1回「青空市」を開催した。当時、新聞などにも掲載され、「青空市」は成功した。それにより、出店者が2回目以降の開催を望み、年3回から4回、最多のときは年5回行う

ことになった。また、2006年に静岡市観光課の依頼により、「青空市」は用宗海岸海開きの時に初めて参加した。現在、「青空市」は①用宗海岸海開きの日、②用宗町内会文化展開催日の日曜日、年2回に開催している。開催回数は減っているが、それでも、地元住民やほかの地域の人々の交流の場として、「青空市」は重要な役割を果たしている。

表2 「やらざあ会」の歴史

年	月	主な活動
2004年	11月	7名の商店主により発足
2005年	5月	第1回用宗公園緑地青空市（フリーマーケット）の開催
	11月	用宗町内会文化祭（公民館）に青空市初参加
2006年	7月	市依頼により用宗海岸海水浴場海開きの日に青空市初参加 「浜のふれあい撮影会フォトコンテスト」約150名カメラマン集合
	3月	用宗歴史講演会（用宗公民館）
2007年	夏	海岸花火大会計画、中止
	春	静岡信用金庫TVコマーシャルに参加
2009年		年5回奇数月に「青空市」定期開催決定
	5月	オリジナル定額給付金応援サービス券の配布
	6月	静岡市定額給付金スピードくじ 市の依頼により参加
2010年		静岡市より補助金支給
2011年	3月	東日本大震災発生東北3県壊滅に伴い海岸波浪注意報発令、青空市中止
	7月	用宗海水浴場海開きの日に青空市を開催。義援金集めて日本赤十字社へ寄付
2012年		用宗駅裏の城山山道頂上整備の応援に参加
2013年	3月	用宗漁港屋根付場にて、漁港関係者より応援依頼があったため、朝市フリーマーケット開始

出典：用宗やらざあ会のブログ（2014）より高作成

#### 4.1.2 活動における課題と展望

「やらざあ会」が主催している「青空市」は、地元の高齢者などに楽しんでもらえる一方で、どのような課題を抱えているのだろうか。このことについてA氏（男性、50代）に話を聞いた。

A氏は元々「やらざあ会」に入っていたが、意見の相違などによって途中で退会した。A氏によれば、現在、「青空市」の出店者はよその人が多く、それにより、用宗地元の意識が薄くなったという問題が起こっているという。確かに、私は2014年7月20日に「青空市」に参加した時、丸子、静岡市葵区などから来る出店者が多く見受けられた。販売してい



る商品も玩具、たこ焼きなど普通な物が主で、用宗の地域性を現している商品が少なかったと実感した。『静岡新聞』の2012年9月12日の記事によると、2014年9月9日に開いた「青空市」には、近隣の有志を中心に堤防の緑地におよそ30軒の店が出し、地元で加工された干物、手作りのジャムなどを並べられたという（『静岡新聞』2012年9月12日）。これにより、以前の「青空市」には用宗の地域性を現している商品、つまり海産物などを販売されていたことがわかる。用宗をさらに盛り上げるために、地元産の商品を販売し、地元の出店者をもっと集める必要があるのではないかと私は考えている。

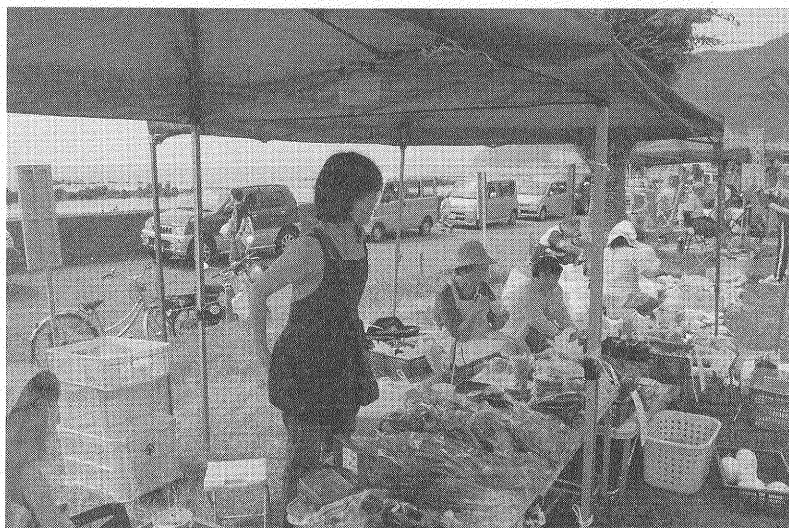


写真1 「青空市」の出店者たち（高撮影）

地元の人が「青空市」に出店しない理由について、「やらざあ会」の会員であるB氏（男性、70代）は自分の店が忙しくて、出店する余裕がないから、出店しなかったと語った。そして、第1回「青空市」に出店していたC氏（女性、60代）によると、①出店料金が500円から1000円に上がってやや高い、②海開きの季節で出店するのは暑すぎて辛い、③出店料金は団体による使用が不明などの理由で出店することをやめたという。用宗の出店者をもっと集めるために、地元の商店主や住民の意見を聞き、現在の活動の問題点を反省し、改善する必要があると思われる。

#### 4.2 長田南商店会

下記の内容は長田南商店会の会長である前田義之氏（男性、57歳）、また会員である久保恒治氏（男性、64歳）から聞いた話にもとづいている。

昭和の始めより昭和30年代まで、用宗駅から踏み切りまでの商店街には店が多くて、大変賑やかだった。しかし、その後①後継者問題、②安倍川駅ができたことによる用宗駅

の利用者の減少、③漁業の衰退、④敷地が狭いため、店が移転したことなどが原因で商店街の店は徐々に減ってきた。そこで、商店街の活性化を目指して、長田南商店会が打ち立てられた。

長田南商店会の設立の経緯に関して、長田南商店会に入っている店は元々「やらざあ会」に入っていたが、「やらざあ会」が主催している「青空市」はよその人が多く出店し、またまったく利益がないので、「やらざあ会」から退会した。退会した店は商店街の衰退という現状を変えるために、今の長田南商店会を設立したという。

「長田南商店会」という名前を付けた理由について尋ねたところ、もともと長田南地区の店と一緒に、長田南地区の活性化のために活躍しようと考えたが、実際に商店会に入っている店は用宗の店だけだ、という答えがかえってきた。現在、用宗の7つから8つの店舗が長田南商店会に入っている。

商店会の主な年間活動は、用宗または静岡市で行われているイベントに参加することである。例えば、なぎさ市、わくわく祭り、青空会、しらす祭りなどである。また、主催者として歳末福引きセールなどの活動を行っている。

これからの商店会の活動としては、①長田南地区の観光マップを作ること、②長田南地区の店を商店会に入ってもらえること、③大人から子供まで、みんな参加できる祭りやイベントを開催することなどを計画しているそうである。

長田南商店会の課題として、私は以下の3点があると考えている。

- ① 今以上に、積極的に商店のことを発信していくことが必要であろう。
- ② 商店会に加盟する店を増やす必要があるだろう。
- ③ 商店会同士が一丸となって活性化に向けて協力し合う必要があるだろう。

### 4.3 「なぎさ市」実行委員会

#### 4.3.1 「なぎさ市」

なぎさ市実行委員会について、その団体の会員である前田篤史氏（男性、64歳）にお話をうかがった。

2013年、長田南地区の地域ブランド向上および産業の活性化を図ることが目的として、なぎさ市実行委員会が立ち上げた。この委員会の会員は5名である。団体の重要な活動に「なぎさ市」があげられる。

「なぎさ市」は元々広野の農家が開催していたが、出店者が少なく、人も集まらないなどといった原因で、用宗が引き継いだ。去年3月に地元の漁業者ら約20団体が出店し、地元の海産物や野菜を販売する朝市「第1回用宗港なぎさ市」が開かれた。

「なぎさ市」は、誰でも出店することができる。しかし、今は出店希望者の増加により、出店者が住所、名前、希望販売品目など記入した申込書を書くことが必要になった。また、一部の商品については実行委員会の専売となるので、販売できない場合もある。例えば生

シラス、釜揚げシラスなどが挙げられる。このような商品は清水漁協用宗支所が専売するので、他の店は販売できない。出店者はなぎさ市実行委員会に売上金の5パーセントを出店料金として出す必要がある。出店料金は店の保険、また、なぎさ市実行委員会の事務経営のために使用する。例えば、イベントの花火の費用、チラシの印刷などが挙げられる。

「なぎさ市」の会場は、2009年7月まで漁港のマグロの荷さばき場だった敷地を改修して使用している。「なぎさ市」が漁港内で行われている理由について、清水漁協用宗支所長である上山一仁氏（男性、45歳）によれば、未利用地の有効活用のためだという。

「なぎさ市」は去年から月1回程度に定期的に開催している。回を重ねるごとに認知度が高まり、客数が増えている。また、「なぎさ市」の開催により、市内外の買い物客が集まって、用宗を盛り上げた。

#### 4.3.2 「なぎさ市」が抱える課題と展望

「なぎさ市は売れ物が安くてほぼ利益がない。会場は用宗漁港なので、商店街の街道を通らないから、商店街の活性化に対して意味がないではないか」とD氏（男性、60歳）は語った。「ただ1回の商売ではなくて、全体的に考えてほしい」とD氏は考えている。

2014年6月22日、「なぎさ市」に参加したところ、農産物を販売している農家が多かった。それに対して、海産物など売っている店は3つしかなかった。用宗漁港内で「なぎさ市」を開催するなら、漁港のイメージを表すために、海産物などを販売する店をさらに集める必要があるのではないかと私は考えている。また、40団体が出店していたが、それぞれの特色を表すために、店名・商品などを記入した看板を掲げた方がいいのではないだろうか。

これからの「なぎさ市」の方向について、1つ目は地域の人をもっと集めたいこと、2つ目はコンサート、音楽会などのイベントをやってほしいこと、3つ目は出店料金が売上金の5パーセントと少ないため、野菜、水産物をもっと安く販売し、消費者に喜んでほしいことと前田篤史氏は話した。

## 5 用宗のこれから

今回の調査では、用宗の現状、また用宗の地域おこしの団体から、地域おこしの活動とその課題を明らかにした。用宗では様々な地域団体が存在し、それぞれは地域おこしのために活躍している。しかしながら、どの団体も各自の課題を抱えている。この節では地域団体の課題を踏まえた上で、用宗全体における地域おこしの課題や将来への展望について考察していきたい。

### 5.1 用宗の地域おこしの課題

用宗の地域おこしの課題として、以下の3点があると思われる。

第一に、地域おこしを行う主体は年配の人が多くという点である。「やらざあ会」も、「汐風クラブ」も、参加している人は50代から60代の人が多いとE氏（男性、73歳）は話していた。「なぎさ市」、「青空市」に出店している人も年配の人が多く見受けられている。地域団体はいくら現時点で成果を出しても、地域おこしの活動を後続していく人がいなければ長期的な地域活性化は実現できないだろう。若者の地域おこしのイベントへの参加が少ないことにより、地域団体には継続者の問題が生じると考えられる。

第二に、用宗の地域おこしの活動は用宗の地域性を十分にアピールできていないという点である。「青空市」、「なぎさ市」は地域の人々の交流の場となったが、地域外の人々に用宗の魅力を発信していくため、また地元の人を楽しんでもらえるため、用宗の地域性をアピールできる店を増やす必要がある。今、「青空市」でも、「なぎさ市」でも、地元以外の店が多く出店されている。それで、用宗の魅力が十分に買い物客に伝わっていないと思われる。

第三に、商売をしている人と商売をしない人の間に、地域おこしに対する考えに不一致がある点である。商売をしている人は、多くの人が用宗を訪れてほしいと考えており、それが地域おこしへのモチベーションとなっている。商売をしない人は、このままでいい、用宗には地域おこしを行う必要がないと考えている人が多い。用宗の地域おこしは地域住民どうしの結束力の強さから生まれたものである。そのため、今後の地域をさらに発展させるために、住民たちの意見を聞き、住民みんなの力を集める必要があると考えられる。



写真2 地域おこしを支えている方々（高撮影）



写真3 地域おこしを支えている方々（高撮影）

## 5.2 将来への展望

これまで用宗の地域おこしの現状や課題について分析してきた。最後に、それらを踏まえて、用宗のこれからの地域おこしについて、以下のことを提言しておきたい。

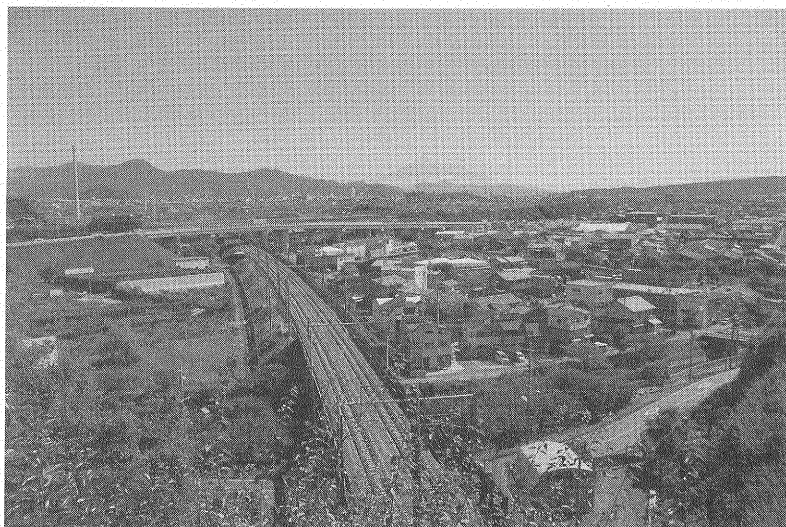


写真4 城山から見る富士山（高撮影）

① 行政、地域団体、住民など様々な地域おこしの主体の話し合いの場を設置する。

用宗では地域おこしのために活動する主体がたくさんあるが、今まで連携をあまり取れていない部分があったと考えられる。多くの成果を実現していくために、地域おこしの異なる担い手同士が相互に協力する必要がある。そのためには、担い手間の情報交換の場、新しい地域おこし情報や知識技術を手に入れる場を設ける必要がある。

② 地域のなかで理解を得るために情報公開を行う。

地域おこしの活動に参加していない住民は、用宗の現状や地域おこしの活動について十分に認知していない。そのため、地域おこしの必要性、地域イベントの開催などをわかりやすく地域内に説明する必要がある。地域おこしを達成するために、幅広い世代からの参加や理解を得ることは欠かせない。

③ 地域資源を利用し、用宗の魅力をさらに積極的に宣伝する。

海の美しさ、おいしい長田の桃、綺麗な城山など、用宗には様々な魅力がある。その魅力を発信するために、宣伝こそもっとも重要である。観光マップを作ったり、イベントのパンフレットの設置場所を増加させたり、様々な方法を利用して、用宗の名を広く知らしめる必要がある。

## 6 おわりに

本報告では用宗の地域おこしの現状を分析し、地域おこしを目指している団体を取り上げて、用宗の地域おこしの課題について考察した。また、それらを考察した上で、用宗の地域おこしの将来性について考えた。

用宗の地域おこしは、町内会という行政、商店会、「やらざあ会」などの団体、そして地域住民がお互いに協力し合って発展してきた。前述のとおり、町内会の応援により、住民が主体となり地域おこしの団体、例えば、「やらざあ会」、長田南商店会などが生み出され、それぞれが用宗の活性化のために、さまざまなイベントや活動に活躍している。これこそがまさに地域おこしのあり方だといえるだろう。森巖夫によれば、むらづくりにおける勝者と敗者の分け目は気象や地勢などの自然条件に恵まれていることでも、交通などの立地条件が勝っていることでもない。また、国や県の予算をよそより早く、多く取得している政治力に長けていることでもない。結局は、それぞれの地域の主体的な力量、すなわち地域自体の内発力をおいてないとする。言い換えれば、人づくりこそがむらづくりの決め手である（森 1933）。地域おこしを成功に導く決め手は地域の人々である。住民に地域おこしの意欲がなければ、地域おこしは成功するはずはないだろう。今回の調査を通して、用宗の人々は熱意を持って、地域おこしの活動を積極的に行なっていると感じた。用宗が今後も地域に根ざした発展を続けるために、さらに住民の地域おこしへの意欲を向上させる必要があるだろう。

## 謝辞

今回のフィールドワークは不安な気持ちでスタートしましたが、インタビューにご協力いただいた親切な用宗の方々のおかげで、調査は私が最初に想像していたよりも順調に終わりました。最後に、お世話になった用宗の方々、一緒に頑張った仲間、ご指導いただいた先生方に感謝の気持ちを表したいです。本当にありがとうございました。

## 参考文献

### 静岡市ホームページ

2014a 「町名別人口・世帯数の推移（平成9年～26年：各年9月30日）年1回更新」（2014年7月10日取得、[http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/tokei\\_hp-jinkou\\_jyuki\\_j-index.html](http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/tokei_hp-jinkou_jyuki_j-index.html)）。

2014b 「平成26年6月30日 5歳階級別・町名別人口」（2014年7月10日取得、[http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/tokei\\_hp-jinkou\\_jyuki\\_j-data.html](http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/tokei_hp-jinkou_jyuki_j-data.html)）。

### 総務省統計局ホームページ

2014 「人口推計（平成26年（2014年）1月確定値，平成26年6月概算値）（2014年7月10日取得、<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm>）。

### 西村幸夫

2007 『まちづくり学—アイデアから実現までのプロセス』朝倉書店。

### 森巖夫

1933 『地域おこし最前線』家の光協会、14-15。

### 用宗やらざあ会のブログ

2014 「やらざあ会の歴史」（2014年7月15日取得、<http://yarazaakai.cocolog-nifty.com/blog/rekisi.html>）。

### 用宗町づくり委員会

2008 「第2回用宗まちづくり会議議事録」用宗町づくり委員会。

### 山本劭

2007 『用宗漁港50年のあゆみ』静岡市役所経済局農林水産部水産漁港課。